

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 053	提案機関名 自然環境保全課
要望問題名 ツキノワグマの出没予測に資する堅果類調査等について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、人里へのツキノワグマの出没が多く発生し、その対応について市町村をはじめとした関係各所から強く求められている。そのため、前段の対応策として、精度の高いツキノワグマの出没予測が必要となる。山の堅果類の豊凶状況が出没傾向と関連するとも言われるが、現時点では有効な手法がない。 自然環境保全課や野生生物課、鳥獣被害対策支援センターなどと連携しながら、出没予測に資するための調査研究に取り組むことを要望する	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 優良種苗確保育成事業等		
対応の内容等	自然環境保全センター研究連携課では、優良種苗確保育成事業の一環として、ブナの雄花落下量調査、堅果類の目視による雄花の着花状況調査を実施しています。また、ブナ林等の再生事業の一環として、ブナの展葉前の花芽の割合調査を実施しています。当センター野生生物課では、ツキノワグマの出没予測を目的として、令和2年度から堅果類の結実状況調査を開始する計画となっていることから、当センター内の連携により堅果類の着花・結実調査データを充実させるとともに、ツキノワグマ出没予測に係る既存の研究情報を収集・提供し、調査方法の検討を進めるなどの調査指導対応を継続いたします。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			